



写真は靴底加工の(株)ニューオタニ。社員7人中、4人が知的障害者。働き過ぎぬように生産を減らし、地域の野球や祭りに皆で足を伸ばす。

足を伸ばそう 年間計画組んで

自立支援法は、地域移行、就労移行を打ち出し、福祉施設の関係固定化を打ち破るつもりでした。しかし、「できる人」、「できそうな人」を選び出し、順番に後押しして社会に出そうと1つだけの発想(足抜き)ではかえって福祉医療に滞留する人々を増やしています。出て行った人たちの孤立も、出てゆく先の社会も、変わりようがありません。

「できるできない」にかかわらず、共に学び働き生きる社会をと、国々での法制度改革の論議が進められています。大いに歓迎します。しかし、地域の現実を変えるのは、地域にいる私たちです。

理念と現実のはざままで悩むだけでなく、いまいる場に軸足を置きながら、週一日でも月一日でも、職場に、地域のボランティア活動に、さらに高校や大学にも、足を伸ばしてみませんか。活動の場や施設として、足抜きを後押しするだけでなく、「足を伸ばす」支援に取り組みませんか。そのための自治体施策を創りだしてゆきませんか。

地域、職場に、さまざまなる人々が、介助や援助を得ながら足を伸ばし、つきあいを広げることで、学ぶ働く喜ぶイメージをふくらませましょ。

アンテナショップかつばが「コーディネートする県の職場体験事業では、今年も障害のある二人が、県庁の職場で実習をしました。三人とも、就労以前に、どこやって職場まで行き着けるかが問題でした。対人恐怖で電車に乗れない家が遠すぎる、介助者がみつからない、施設や事業所や県の受け入れ課を含めて、みんなが悩みながら取り組みました。こんな不安と緊張を経て、共に生きる関係を育ててゆくことが問われています。

総会議案に見られるように、当協会の昨年度事業で、し残したことがいくつかあります。会を支えてきた団体や個人が、地域の事業で多忙になっている実情を反映しています。

当協会の事業計画への参加も含めて、「足を伸ばす」活動を、それぞれの団体、個人の年間計画にあらかじめ盛り込んで下さるよう、切に願います。